

広場整備へ竹伐採

呉羽丘陵で市民有志

富山市金屋地区の住民らでつくる「金屋ふるさと会」と、里山の整備に取り組むNPO法人

ふるさと会の吉村三次会長(69)は「家族連れが自然を楽しめる場所にしたい」と意欲を語った。

「ぎんたろう倶楽部」の計21人は24日、同市金屋の呉羽丘陵で広場の整備作業を始めた。金屋

場所は皇祖皇太神宮近くの谷あい、参加者は生い茂った竹や下草を伐採した。両団体は月に1回ほど作業に取り組み、クリや柿イチジクなどを植える。



竹を伐採する参加者
—富山市金屋

近くには3本の滝があり、吉村会長は「水源があれば鳥や昆虫が集まる。子どもたちが生き物観察を楽しんでくれればいい」と話した。

呉羽丘陵に憩いの場

金屋ふるさとの会 1445平方メートル整備へ

滝周辺に小道や広場

呉羽丘陵にある滝の周辺を歩きやすくし、豊かな自然を楽しめる場にしようと、「金屋ふるさとの会」（吉村三次代表）が24日、富山市金屋で本格的な整備をスタートさせた。60年以上前に誰も入らなくなり荒れ放題だった竹林に手を入れ、小道や広場をつくって魅力の向上を図る。

荒れた竹林手入れ



まちづくりを手掛けるゼフイール（富山市内幸町）の今井壽子相談役が、歴史の宝庫である呉羽丘陵に着目。白鳥城址の近くにある落差3〜10メートルの三つの滝を「金屋幻の滝」（仮称）として、周辺を自然に親しめる場にしたいと考え、協力を呼び掛けた。

この日は、子どもの頃に滝の周辺で遊んだ経験がある住民ら11人でつくる金屋ふるさとの会と、里山再生に取り組む富山市のNPO法人さんたろう倶楽部のメンバーら約20人が参加。倒れた竹の片付け作業に汗を流した。

1445平方メートルを整備し、ピクトープやアスレチック広場などをつくる構想。会では今後、週2回ほど整備活動を行う。吉村代表は「皆さんの憩いの場として活用してもらえるようにしたい」と言う。

今井さんは「地元の魅力を知ってもらい、県民の誇りを醸成したい。山の小道を歩くことで健康づくりにもなる」と話し、協力団体を募っている。

滝の周辺で倒れた竹を片付ける参加者

北日本新聞 平成29年5月25日(木)